

J C I C r e e dの解説

1. J C I C r e e dの成り立ち

我々は各地青年会議所の一員であると同時に、日本青年会議所に所属し、また J C I すなわち国際青年会議所のメンバーでもあり、現在世界の約 16 万人の会員の一人でもある。そして J C I の定款に示されている条項を、会員として守らなければならないのはいうまでもないが、中でも我々が最も身近に感じるものは、J C I クリッドである。

これは 1946 年にアメリカのオハイオ州コロンブス市のビル・ブラウンフィールド氏によって原案が作られた。

次いで 1950 年に現在我々が親しんでいるクリッドの全文が完成し、これが J C I の細則の一部として採択された。

青年会議所が J C I に加盟したのは 1951 年であるから、日本が加入する前に、現在のクリッドが正式に採択されていたのである。1953 年にこれが定款に取り入れられ、それまで以上に重要視され、我々 J C の行動の最も基本の信条として定められたものである。

その後、第 2 項の信仰に関するところが機会あるごとに問題視され、幾度か削除や訂正の動きが世界会議においてなされているが、いずれも否定されて今日に至っている。

なお、第 3 項の自由経済が最良の経済機構であるとしているところも、社会主義政策に片寄りつつある一部の国々で問題にしているようだが、第 1 項ほどの反対はないようである。

2. 世界的な青年会議所運動の原則

J C I クリッドは世界的な青年会議所運動の基盤であるにもかかわらず、世界中の会員の中には時にこれを誤解しているものもある。ここに草案者ブラウンフィールド氏による綱領の解釈の抜粋がある。

「綱領に示されている思想はおそらく表現方法を除けばオリジナルのものはない。私はこれらの思想は民主的な生活形態の中で生きる J C の信念を正しく代表するものであると信じている。」

「各 J C は自分の良心に照らして綱領を解釈する自由がある。だから私も綱領が私にとって何を意味するかを説明する時、自分自身のために話すわけである。」

「綱領は “We Believe” という最初の 2 つの言葉によって力強く断言している。」

「自由世界の弱点は基本的原則に対する信念をしばしば表明し忘れてしまうことである。マグナカルタを起草し、ヨーロッパ封建制度の束縛を破り、植民地的地位から立ち上がって独立した人々の子孫はしばしば自由に対する闘いを永遠に勝ちとったかのように行動する。民主主義を信じるということはその信念に従って生き、働くことによってすべての人

が自由の意味するものを知るようにすることである。」

「もし我々が自由を求める人々の傍に恐れずに立ち上がり、より良い世界の建設のために勇敢にも先に立って歩くのならば、自由人の声は国境を越えてこだまし、人々はそれに耳を傾けるであろう！」

「しかしまず、我々は信じなければならぬ。」

F a i t h i n G o d g i v e s m e a n i n g
a n d p u r p o s e t o h u m a n l i f e

「いつの時代にも人間は宇宙における創造主の存在を感じ取ってきた。多くの宗教体系や、自然現象に対する様々な解釈が発展して、人間の創造主に対する関係を説明するようになった。」

「時間と空間は人間の思考の限度を超えて無限である。しかも精神はこれらの次元に拘束されない。誰が人間の情の深さと幅広さを限定することができようか？あるいはどこに人間の思考に匹敵する驚異を発見できるだろうか？」

「J C会員は様々な宗教的背景を持つが、信仰という共通の紐帯で結ばれている人間は神の意志によって生きるのであり、人間に対する神の意志は善であり、価値ある生活とは神の永遠の計画に調和して生きる時生まれるものである。これが共通の信仰である。」

T h e b r o t h e r h o o d o f m a n t r a n s c e n d s
t h e s o v e r e i g n t y o f n a t i o n s

「人間が自分自身を昨日と明日をつなぐ生命の鎖の一環としてみることはむずかしい。人間が自分の時間、場所そして活動を重要なものの中心とみなすことはごく自然である。」

「しかし何世紀にもわたって歴史の流れが示すように、文明は栄え、やがて衰え、帝国はその後全盛を迎えたが、再び灰燼に帰した。」

「人間の作った境界線は何度も書き替えられ、人類をいくつもの国家に分けた。しかしこれらの不自由な境界を越えて、文化・科学・商業・宗教の交流があった。これは人間の宇宙的兄弟愛の証拠—人間のおかれている領土上の区分ではなく、人間自身に基本的価値があるという証拠である。」

「歴史的にみて、戦争や革命は権力—支配するための統治権—をめぐる争いであった。全体主義国家では統治権は一人の人間或いは少数のグループの人間によって握られる。民主主義国家では権力を様々な段階の統治機関に割り当て、権力は人民に属する。」

E c o n o m i c j u s t i c e c a n b e s t b e w o n
b y f r e e m e n t h r o u g h f r e e e n t e r p r i z e

「過去を振り返ってみる時、よい生活という頂上をめざして登っていく人間の前進過程にある種のマイルストーン（歴史上の画期的事件）を発見する。経済的進歩が最も大きく見られた時には、人間は今までやったこともないようなことをすることによって、あるいはよりうまく行うことによって、個人の財産を作るという夢を自由においかけていった。

このような体制のもとではよりすぐれた能力と大きな勇気を必要とされた。多くの人々が冒険をし、財産を失った。しかし、これこそ最大限の進歩を可能にするあの創造的天才のひらめきをもたらすことのできる唯一の過程であったと思われる。この個人のイニシアチブという基盤が現在の高度な生活水準の基盤となり、将来の発展への希望となっている。」

「しかも私企業を通しての自己開発という体制は世界各地の地域的条件に合うように様々な採用の仕方がありうる。人間は政府の料理した一椀のあつもののために生まれながらにして持っている自由の権利を売ることなく欠乏と苦痛を免れた新しい世界を建設することができる。」

G o v e r n m e n t s h o u l d b e o f l a w s
r a t h e r t h a n o f m e n

「自由社会においては基本的な法律は人民に由来するものである。最終的権限を持つものは人民である。人民の法律が政治の基盤として憲法の中に制定される。そして人民のみがそれを変更することができる。我々はこれを法の支配とよぶ。」

「多くの国ではみせかけの憲法の下で政治が維持されている。しかし、現実にはそれは人間による支配になっている。民法や刑法が人民の同意なく改正され、人々には自由な選挙も抑圧から逃れる機会もない。生命と自由がしかるべき法的過程をふまずに危険にさらされる。人々は同意なく課税され、命令されるままに働き、そして何が真実であり何が誤っているかを教えこまれる。」

E a r t h ' s g r e a t t r e a s u r e l i e s i n
h u m a n p e r s o n a l i t y

「仕事、研究及び社会奉仕によって法の支配を完全にし、権力に飢えた者のきらびやかな約束事に抵抗するならば、我々の制度は生き残るであろう。」

「勿論、世界の物質的富にそれ程価値をおかなかつた多くの賢い人々が、文学・芸術・音楽・科学・宗教及び知識の全般的増加という分野—永続的な価値という宝—において、はかりしれない程大きく貢献してくる。」

「人間性というこのような無形の産物の蓄積が時代時代を経て極めて貴重な遺産となった。そして毎年少しずつその遺産に追加がある。それはさびたり、腐食したり、すり切れたり、消費されたりすることはない。それは人種とか、信条、或いは肌の色を知らず、また、階級や地位などというものを知らない。」

「ほんとうの宝は人間の心の中にある。我々のまわりには人間性を養う機会が多くある。人生に妙味を添えるものは人生の量でも長さでもなく、人生の質、つまり人類の進歩のために我々が成しとげるものである。」

S e r v i c e t o h u m a n i t y i s t h e b e s t
w o r k o f l i f e

「ライフワークの選択は我々の最も重大な決定の一つである。適職についての優秀な働き手は真に共同体及び自由社会中堅の誉れである。」

「利己的でなく生きる人生はより豊かに、より深いものに、そしてより満ち足りたものになる。喜びはより永続的なものとなり、心の平安により確かなものとなる。世界はそのような人生が与えた貢献を見つめており、人類に恩恵を施すために生を知った人に注目している、しかし、彼は本当は自分こそもっと大きな恩恵を施されているということを知っている。」

「我々はあまりにもしばしば“良い隣人”となる機会を逃してしまう。人の役に立つことを習慣とし、やりがいのある活動に参加することを慎重なる人生設計の中に入れるのがよろしい。それについては何の疑いもない。人間性への奉仕は人生最良の仕事なのであるから。」

「以上は J C I 綱領の意味することを私が個人的に解釈したものである。しかし行為においてのみ言葉は肉となり得る。世界中の若者が活発に J C の活動に参加する時、彼らによって世界はより良く、より美しいものになるだろうということを我々は確信することができる。」